

男性からみた男女共同参画社会の一こま

突然ですが、横断歩道をのろのろと渡っている人をいらいと待ちながら、汚い言葉で思わずのしったことなどありませんか。そのような場面を想像してみてください。たまたまそのような時に、この世は『おたがいさま』で成り立っている。・・・と、いみじくもこの年になって、親友から端的に心を突かれたその時は、『なにを』と反発もありましたが、しばらくすると『なるほどそうか』と、自分ながら納得して、以来、その『おたがいさま』の言葉が、時として自然に己の口から出るようになりました。『良薬は口に苦し』と言うが、親友の忠告は幾つになっても有り難いことであるし、改めて掛け替えのない人との関わり大切さを知りました。

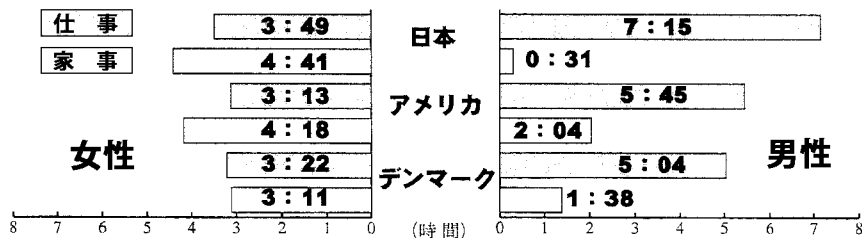
しかし、短期でわがままな『B』型の自分の性格は、なかなか矯正は難しいことです。であるけれど、己の性格を楯に取ってわがままを押し通すことができるほど、世間は甘くはないし、また、年相応に人の言動を素直に受け入れるという、『分別のある』スタンスを見せることも時には必要な立場でもあります。弱いつもりでも強いのが『我』であることを時に銘ずべし。と反省はしていても、『おたがいさま』の世であることに思い至らぬままに今までの道のりで、おおげさな言い回しではありますが、何度か己の知らないうちに、危ないところを人に助けられながら通り過ぎてきたに違いないと思います。

さて、色々と言ってきましたが、このあたりで締めなくては・・・。
男女共同参画社会とは・・・男女が社会の対等な構成員として自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、その結果男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を受けることができ、かつ共に責任を担うべき社会とありますが、一面『おたがいさま』(お互いを大切にするの意)の社会のことでもあるのではないのでしょうか。
俺も、お前も！ますます年をとって体が思うように動かなくなるよね。その時は『よろしくおねがいします』とどちらかが言ったら、どちらかが『おたがいさまね』と言ったそうです。お互いを思いやりゆつたりと生きてさえいければと思います。

シリーズ37 ～男女共同参画社会実現に向けて～ 都留市男女共同参画推進委員会

日本の男性の仕事時間 7時間15分

仕事中心の日本男性



生活時間の国際比較では、日本の男性は仕事時間が長く、家事時間が31分と最も短くなっています。
仕事と家事の時間の割合を比較すると

仕事：家事

日本の男性は、 **100：7**
アメリカの男性は、 **100：36** となります。

『男の役割』『女の役割』は、決まっているのでしょうか？
『家庭のぬくもり』って、妻・母だけが作るものでしょうか？

『ほんとは、男もつらいよ』という、あなた

『男だから』背負わなければならないこと
とっていたことから解放され、

『男だって自由に生きたい』

『自分らしくありたい』

と思ったことないですか。

男は、『強く、たくましく』

一人でガンバルお父さん！
『強く、たくましく』という、男らしさの“メッセージ”を受けて、競争社会に生きる男たち。
大黒柱・企業戦士・・・過労死・リストラ・セクハラ・・・
『育児をしない男を父と呼ばない。お父さんでいる時間を、もっと』『厚生省(現厚生労働省)のポスターで話題になりましたが、日本のお父さんが育児にあてている平均時間は何分だと思えますか？ 一日・・・十七分です。これだけしか、あてられないというのが現実でしょうか。では、仕事時間は何時間？
では、家事時間は何分だと思えますか？

